

みんなの ひろば

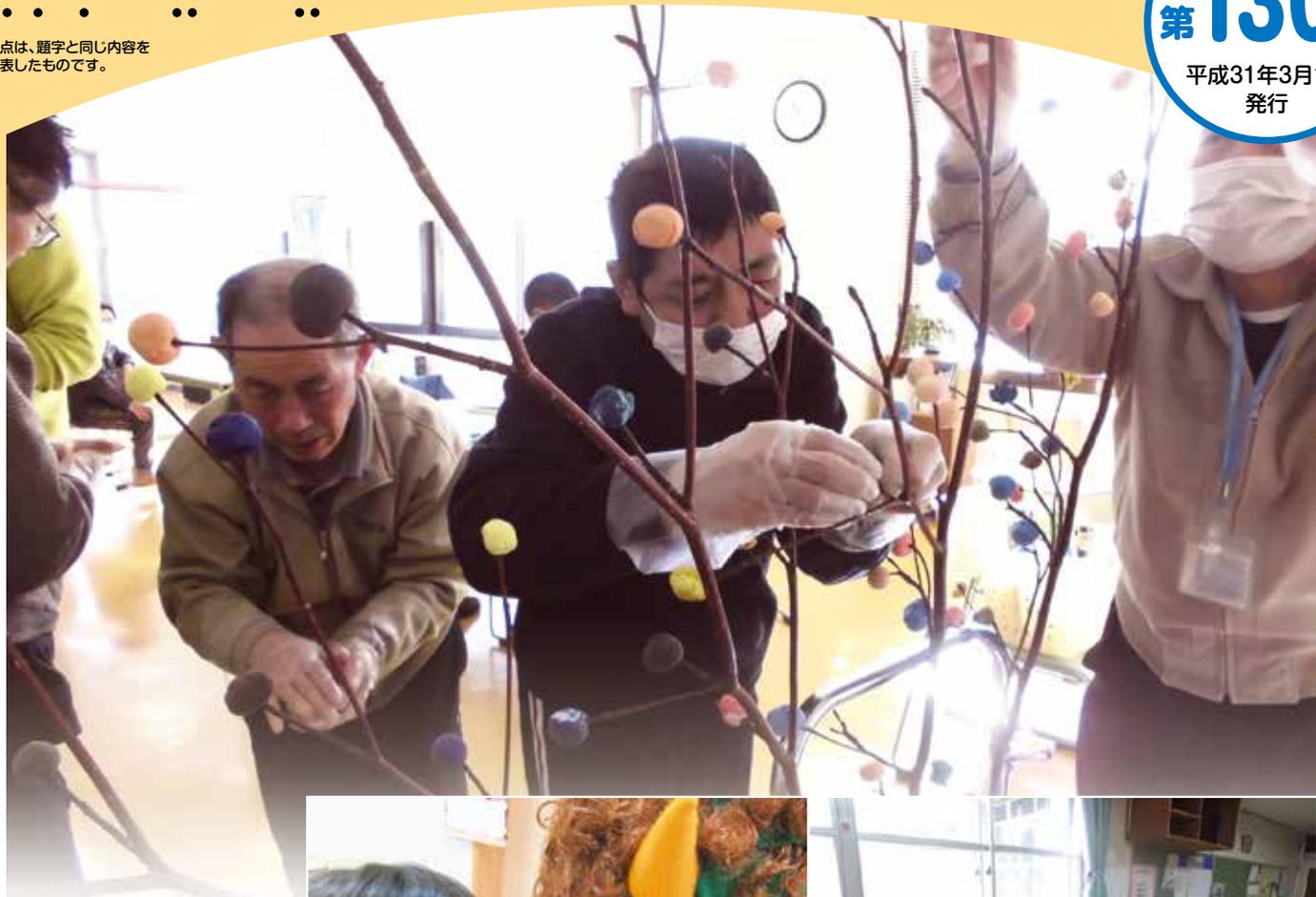
.....

※上の黒点は、題字と同じ内容を
点字で表したものです。

主 な 内 容

- 理事長あいさつ 2
- 全国地域生活定着支援センター協議会
北海道・東北ブロックセンター研修会 3
- みたけ学園・みたけの園 後継施設の新名称が決定
- 共同生活事業所「じゃんぷ」新設グループホーム 4
- 業務改善活動発表会 5
- 西日本豪雨被災地支援活動 6
- 松風園 就労定着支援事業
- 人材育成室から 7
- 障がい者文化芸術活動支援 8
- 新採用職員紹介

第 **130** 号
平成31年3月1日
発行



生活介護事業所
ふたば

～小正月行事～

恒例の「みずぎ団子作り」をしました。
“今年もよい年でありますように!”



児童養護施設
和光学園

～節分行事～

今年も和光学園に鬼がやってきました!



障害者支援施設
かたくり

～お楽しみショップ～

雪深い奥中山でも買い物がしたい!
という利用者さんの願いを叶えるため、
近隣の商店に出張してもらいました。

冬の風景



岩手県社会福祉事業団 理事長
水野和彦

事業団の“誇りと自信”を、 全体の広がりへと!

～『オモイをカタチに』
職員全員の意識へとつなげよう～



～岩手県社会福祉事業団がサポートします～

今年度を振り返り、次年度への期待を込めて……。

1 利用者視点の「安心安全」

昨年は、利用者の方への支援にあたり、職員の意識が利用者視点と言えない事案があり、当事業団にとりまして、職員の人権意識を改めて考えるべき年でありました。

あえて言うまでもないことではありますが、ですが、当事業団の経営基本方針の冒頭に掲げているとおり、「人権の擁護・お客様本位の良質かつ適切なサービス提供」は、安心して利用者の皆さんに日々過ごしていただくために欠くことができない、第一の視点であります。

そのためにも、『福祉の向上と経営基盤の確立』をその両輪として、職員の資質及び体制のさらなる充実に向上と個人法人ともに自律している事業団を、職員一丸となって、目指していかなければなりません。

○(1)「安心・安全な生活、雇用環境」

時代ニーズに沿った、ICT・福祉機器の活用など、日々の支援の視点に立ちながら、リスク管理を常に見直し、利用者の皆さん・職員の皆さん共に、より安心して住み、働ける環境の施設整備を図っていくことが大切です。

○(2)「日々工夫による支援力の向上」

「オモイをカタチに」(基金(仮称))を活用するなど、職員が内外の研修参加等自らの資質向上や検討会等による法人としての新課題の探求など、進取の意欲をもって、支援サービスの一層の充実に進んでいきます。

多様な人材を確保・育成し、相談支援体制の充実をはじめ、将来を見据えた事業団の人的体制の確立を早期に図る必要があります。

○(3)「長期的な経営基盤の確立」

財務基盤の二層の安定化や公益的な取り組みの充実のもと、社会福祉法人制度改革の着実な推進を図り、将来にわたり利用者の皆さんにとっての「最後の砦」としての役割を担う基盤を確立していくことが必須です。

○(4)「日々地域との共生」

日常的な行事等の活動をはじめ、災害時をも想定した「地域とのつながり」を図るなど、日々の発信による地域理解を得、地域の「員としてのヒト・組織であり続けることが不可欠です。

2 「先義後利」の姿勢で

(1) 新施設整備を充実

施設整備については、昨年矢中町へ移転した療育センター隣地に、岩手医大が今秋に移転予定、さらには、現在のみたけ学園・みたけの園が、2020年には盛岡市に「てしろもりの丘」、2022年に滝沢市に「みたけの杜」として、新しい名称のもと、建替え施設の建設が進みます。そして、施設の小規模化・地域分散化・多機能化に向けた和光学園の施設整備の検討、拠点ごとのグループホーム等の整理と充実、中山の園の将来に向けた検討など、本格的に環境変化が進みゆく年であります。

(2) 新しいソフト面での充実

昨年秋季事業団内に設置した、「岩手県障がい者芸術活動支援センター」・「かだあると」によるオール・ブリネット活動の県内外への普及や地域生活定着支援センターの再犯者生活支援のニーズ把握・充実など、新たな展開を推進していきます。

事業団全体の意識である、「いいね!のオモイを、いいね!!のカタチに」の精神を職員全員その心に抱き、地域の「一員として歩んでいきましょう」。

「誰ひとり取り残さない」共に歩む安全・安心なやさしい街の実現を目指して」

平成30年度全国地域生活定着支援センター協議会 北海道・東北ブロックセンター研修会を開催

平成30年11月15日・16日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)で、平成30年度全国地域生活定着支援センター協議会北海道・東北ブロックセンター研修会を開催しました。福祉・司法・行政・医療関係者等、約250名のご参加をいただきました。2日間に凝縮されたプログラムの中から一部を紹介いたします。

1日目の基礎講座では、全国で先駆的な取り組みを行っている長崎県地域生活定着支援センター 所長 伊豆丸剛史氏から地域生活定着支援センターの概要をはじめ、具体的な事例を基に地域で支える官民協働の仕組み作りや入

口支援について、静かな語り口の中に熱い想いが伝わるご講演をいただきました。

また、2日目は、全国地域生活定着支援センター協議会会長 北岡賢剛氏から地域生活定着支援センターの現状と課題を踏まえて、これからの役割について、ご講演いただきました。その中で、全国の地域生活定着支援センターが関わって約9割が再犯に至らず、生活できているという成果が上がっている反面、都道府県で格差があり、課題もあることなどを丁寧に説明していただきました。

参加者の皆様からは、「基礎知識から共生社会の理念までたっぷり勉強できた2日間だった。そして、ネットワーキング作りについて、見えるセンターになつて欲しい。」等、多くの貴重なご意見等をいただきました。この研修会が、排除していく社会ではなく、共に歩んでいけるやさしい街の実現の一助になれば幸いです。

今後とも、地域生活定着支援センターの運営等につきまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(岩手県地域生活定着支援センター 相談支援員 石角英)

1日目

- 行政報告
「地域生活定着促進事業の実践と課題等について」
厚生労働省社会・援護局総務課 課長補佐 熊坂洋三氏
- 基礎講座
長崎県地域生活定着支援センター 所長 伊豆丸剛史氏
※ほか、岩手県内の各関係機関の方々に講師を担当していただきました。

2日目

- 講演
「これからの地域生活定着支援センターの役割について」
全国地域生活定着支援センター協議会 会長 北岡賢剛氏
- 特別講演
「明石市における更生支援の取り組みについて～やさしい社会を明石から～」
明石市長 泉房穂氏

熱い講演に勇気をもらいました

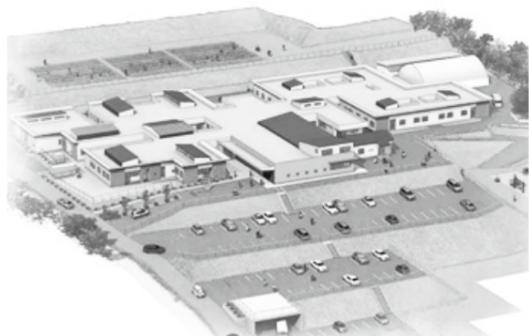
「てしろもりの丘(おか)」「みたけの杜(もり)」に決定 みたけ学園・みたけの園後継施設の新名称

みたけ学園(福祉型障害児入所施設)、みたけの園(障害者支援施設)は、現建物の老朽化に伴い、所有者である岩手県が移転・改築に向けた工事を進めています。施設が2カ所に分散整備されることから、当事業団が施設の新名称を公募し、この度、施設の新名称を「てしろもりの丘」(盛岡市手代森)と「みたけの杜」(滝沢市穴口)に決定しました。

「てしろもりの丘」は、みたけ学園の定員40名全てと、みたけの園の定員60名中30名分が移転、2020年開設予定です。「みたけの杜」は、みたけの園の定員30名分を改築、2022年開設予定です。

昨年秋季に、県民の皆様へ新名称を公募したところ、全部で136作品の応募があり、施設の利用者や家族の方々、岩手県・盛岡市・滝沢市の担当課長、当事業団の理事・監事からなる検討委員会において、審査・検討いただきました。

その検討結果を踏まえ、いずれも整備場所を表す地名等を平仮名で表し、読みやすく、親しみやすい名称にしたものです。また、整備場所の自然をイメージできる「丘」と「杜」をそれぞれ組合せ、2つの名称の統一感を表しました。



「てしろもりの丘」の外観イメージ

なお、応募作品の中から最優秀賞に選ばれたのは次の方々です。

● 菲澤保男 さん

(滝沢市、手代森の丘)

● 佐々木伸一郎 さん

(盛岡市、みたけの杜)

御応募いただいた県民の皆様、御協力いただいた関係機関・団体等のご協力を、心から感謝申し上げます。
(事務局 経営企画室長 與羽勝則)

業務改善活動発表会を開催



平成31年1月18日(金)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)で業務改善活動発表会を開催しました。

当事業団では、平成22年度より各施設で業務改善活動に取り組んできました。今年度は、試行的に「進捗確認会議」を設置し、定期的に各施設の業務改善リーダーを招集。施設長、副施設長等のベテラン職員によるファシリテーターの指導、助言のもと、類似するテーマごとに意見交換をし、法人全体で取り組みました。入所施設、通所事業、利用施設等のさまざまな取り組み状況について共有を図り、法人内各種事業の理解とともに、法人全体の支援スキルを向上すること、また、若手職員が中心である業務改善活動リーダーのプレゼンテーション能力を向上することを目的に、発表会を開催することとなりました。

当日は、5施設から取り組み結果を発表し、ファシリテーターや講演講師から講評をいただき、それぞれが感じたこと、学んだことを共有する機会となりました。また、特別講演では、青森県のNPO法人夢 副理事長 前田淳裕氏から「発達障がい児・者への支援について」と題し、熱いご講演をいただき、理解を深めることができました。

発表テーマ

- ・視聴覚障がい者情報センター
情報センターに聞いてみよう!!にこたえ隊(相談業務に関する情報収集)
- ・障害者支援施設 りんどう
日中活動支援の充実
～利用者に寄り添う日中活動の実現を目指して～
- ・救護施設 好地荘
誤嚥予防への取り組み
～精神障がい者、高齢障がい利用者への安全な食事提供について考える～
- ・療育センター育成部重心通所係かがやき
設定活動における五感に働きかける活動プログラム作り～夏を感じて楽しもう!!～
- ・児童デイサービスセンター はばたき
Aさんの支援を通して、自閉症支援について支援力を高めよう



重症心身障がい・発達障がい支援者フォローアップ研修(県受託事業)との合同開催とし、法人内外から、およそ170名に参加いただきました。

進捗確認会議



【グループ討議】類似するテーマごとに悩みを共有したり、意見交換をしました。



【研修】パワーポイントの効果的な使い方を勉強し、プレゼン能力もUP!!

5月から11月にかけて、全4回、進捗確認会議を開催しました。業務改善活動が思うように進まない、リーダーが一人で抱え込んでしまうことも…。定期的な進捗確認会議により各施設の取り組み状況を共有し、ファシリテーター等から意見をいただく⇒各施設に戻り実践するというサイクルができ、各施設、停滞せずに活動を進めることができたのではないのでしょうか。また、業務改善活動に役立つ研修会も併せて実施し、参加者から大変好評でした。

特別講演

発達障がい児・者への支援について、アセスメントや記録のポイント等、具体的かつ実践的なお話を聴くことができました。NPO法人夢の先駆的な取り組みの数々は、大変刺激的で、業務に対する意識を高める機会となりました。



NPO法人夢 副理事長 前田淳裕氏

花巻市若葉町 よつばホーム



花巻市石鳥谷町 あおいホーム

ホームに帰れば、たのしい仲間

共同生活事業所「じゃんぷ」(花巻市)

新設グループホーム紹介

平成30年11月、花巻市若葉町に定員7名の「よつばホーム」が新しくできました。花巻市街地であり、徒歩圏内で花巻駅やスーパー、目の前にコンビニもあり住みやすい環境です。ホームの名前は、若葉町で幸せに生活できるようにと幸福のイメージの「よつば」となりました。

同年12月には、石鳥谷町内に、「よつばホーム」と建物、設備が同じ定員7名の「あおいホーム」が開設されました。周辺は住宅地ですが、石鳥谷駅やスーパーが徒歩圏内であり、何より良いのは徒歩5分で松風園があることです。(利用者みなさんは苦笑いしていますが…)ホームの名前は、葵の花言葉に大きな夢、希望とありますが、入居者の皆さんからは水戸黄門の葵の紋の意味がいいとの意見があり、平和な生活をイメージしての名前となりました。

どちらのホームもリースバック方式(建築協力金方式)という、土地とオーナーを探し、希望の建物を建ててもらい借りる方式で、住宅メーカーへ依頼し開設しました。今号では、ホームの設備や住み心地等について、ご紹介します。

設備・おすすめポイント

ホームの設備は、全室冷暖房完備、IHの対面キッチン、24時間換気、緩やかな傾斜の広い階段、安心・安全のスプリンクラーが設置されています。

そして、おすすめポイントは食堂の壁一面がホワイトボードになっていること!皆さんの勤務表やお知らせなど自由に貼っています。



緩やかな傾斜の広い階段は、「登りやすい」と大好評!



食堂の壁一面のホワイトボードは、入居者の皆さんの情報共有につながっています。

入居者の皆さんの声



おいこちがたのしいです。

会社近くなったので通勤が楽になりました!最高です! 😊

※コメントは、入居者さんの自筆です。

入居後の皆さんからの感想は、「新しく良い、楽しい」「エアコンがあって快適」「建物が立派で過ごしやすい」「皆で協力して生活することができ、楽しい」「職場が近くなって通勤が楽になった」「毎日が楽しい、最高! (^_^)」です。

新築ということもあり、家賃は少し高いですが、建物全体が暖かく、快適でありながら光熱費等が抑えられるという嬉しい発見もありました。新しい設備で快適な生活、そこに楽しい仲間たちが加わることで、心も温かくなっているようです。

「よつばホーム」、「あおいホーム」が入居者の皆さんにとって、さらに居心地の良い場所となるよう、また、安心・安全な生活を続けられるよう、今後もサポートしていきます。

(共同生活事業所「じゃんぷ」 副所長 小田島寿江)

人材確保に向けた取り組み

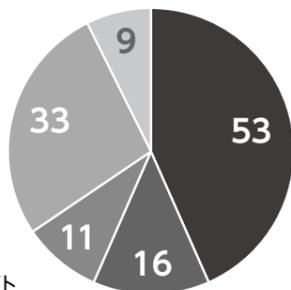
マイナビ2020
当事業団の
専用ページは
こちらから▶



多くの業種で「人材確保」が課題となっておりますが、当法人でも、人材確保に関する取り組みは喫緊の課題です。そのため研修会への参加や各種企業説明会等で他企業の人事担当者と情報交換、県内外の大学・専門学校等を訪問しての情報収集、首都圏大学に通う大学生等のU・Iターンに関するイベントへの参加、当法人ホームページや就職情報サイトを利用した広報活動等を行っているところです。

採用1次試験の際に、「受験契機となった媒体について」アンケートを行ったところ、グラフのような結果となりました。多くの方が、当法人のホームページを確認していることがわかります。また、就職情報サイトを選択したのは16名となっております。「マイナビ2019」にて、当法人登録者は79名、内、各種説明会参加者は32名、受験者数は16名でした。

受験契機となった媒体(複数回答) (単位:人)
(I期・II期採用試験受験者(内部登用除く)105人)



- 当法人HP
- 就職情報サイト
- ハローワーク
- 人(先生、知人、親)
- その他(ラジオCM、他主催説明会)

次年度に向け、1月から「マイナビ2020」の登録が開始されており、徐々に登録者が増えているところです。登録から説明会への参加、そして受験につながるよう、各施設と協力しながら、ホームページ、マイナビサイトともに、より魅力的な記事を掲載していきたいと思っております。

また、受験契機となった媒体で2番目に多いのが、人(先生、知人、親等)からの紹介でした。ネット環境が当たり前の世の中ですが、クチコミの力も大きいのだなあ…と感じたところです。そして、職員一人ひとりの支援の姿勢がとても大切であると改めて実感しています。直接支援はもちろんのこと、ご家族や関係機関や地域の方々との接し方等々、全ての場面が、当法人に関心を持ってもらうきっかけになります。また、職場を離れた場面であっても、丁寧な所作や仕事への誇りややりがいを持っていることが、事業団のアピールにつながります。



(写真左) 【ふるさと発見!大交流会】高校生から大学生を対象とした、若手の企業を紹介するイベントです。若手職員3名でチームとなってもらい、企画から自分たちで行いました。人気投票(素敵な発表)180社中第8位!!



(写真右) 職制別研修では、様々な職制で、遭遇研修やコンプライアンス研修を行っています。研修で知識を身につけつつ、更に内側からも、素敵な人柄がにじみ出るような職員集団となることを目指しています。

各種説明会や内定者研修等では、施設等に勤務する職員に依頼し、「先輩職員の声」を直接お届けする機会を持っています。志望動機、新採用の頃の苦労や嬉しかったこと、大切にしていること、ストレス発散方法等を話してもらいます。参加者からは、具体的な話を聞くことができ、「改めて当法人の採用試験を受験するきっかけとなった」「仕事へのモチベーションが高まる!」との感想が、また、対応した職員からは、「役職員からのメッセージや他の職員の話の聞いたり、自分のオモイを発信することで、自身を振り返る良い機会となった。」との感想が聞かれます。職員の話の聞いていると、私もとても素敵な気持ちになります。人材確保のためには、現在働いている職員一人ひとりが、やりがいや誇りを感じることができる事業団であり続けることが大切だと痛感しています。ますます笑顔あふれる事業団となるよう人材育成室がお役に立ちたい!と思う毎日です。
(事務局 人材育成室長 樽林みず穂)



(写真左) 各種説明会に施設の管理者層の職員にも参加を依頼し、「求める人材像」について説明してもらいました。求職者の様子を直に知ってもらうこと、施設に戻り、部下職員にも再度、理念や求める人材像を伝えてもらうことを目的としています。
(写真右) 「先輩職員の声」のコーナーは、参加者からも具体的な様子を知ることができると好評です。参加した職員も、発信力を高める経験となり、また、自身を振り返る機会となります。

西日本豪雨 被災地支援活動を 振り返って

7月18日〜25日の期間、西日本豪雨により甚大な被害を受けた岡山県倉敷市真備町へ岩手県災害派遣福祉チーム第1次派遣団の一員として派遣されました。活動拠点は倉敷市立南(その)小学校でした。避難者人数は300人と、大きく報道された岡田小と同規模の避難所でした。

一般のボランティアとの大きな違いは、講習を受けた福祉の専門職で構成されていること、県知事による派遣命令があることです。今回の第1次チーム員の構成は、社会福祉士、精神保健福祉士が各1名、介護福祉士2名でした。私はアセスメント担当で、高知県保健師チームとの合同アセスメントとなりました。それぞれの職種を目



避難所内に相談窓口を開設



岩手チームの皆さんと
(左から2番目が野嶋生活支援員)

線で「気付き」
が違うことが
とても勉強に
なりました。

「被災地へ行く。」という瓦礫の撤去や泥かきをするイメージが強いと思われませんが、災害派遣福祉チームは避難所で福祉的ケアを必要としている人を吸い上げ、必要な機関へ繋ぐことが主な役割となっています。今回は避難所内における虐待疑い、外国人避難者(国内初の通訳支援が実施されました!)、発達障がいの子と情緒不安定な母、被災後のうつ症状…。その他にも被災がきっかけで判明した病気や認知症のケースもあり、チーム員それぞれが資格や普段従事している分野にとらわれない柔軟な対応力が求められました。福祉が必要なら、なんでも福祉チームで対応するということではなく、保健師チーム、看護師チーム、医師団、リハビリ専門チームなど各専門職のチームと連携し、協議しながら解決していききました。普段の業務のスピードとはまるで違い、目まぐるしい日々でしたが本当に良い経験ができたと思います。

大変暑い中での活動でしたが、毎日元気に活動することができました。今回の活動を自分だけのものにせず、沢山の人のためにいきたいと思っております。
(障害者支援施設 野嶋斗志香)
生活支援員 野嶋斗志香

「長く働きたい!」をサポート

障害者支援施設松風園
就労定着支援事業

平成30年4月の制度改正で、一般就労に移行した障がい者の就労に伴う日常生活や社会生活上の支援ニーズに対応できるように、事業所・家族との連携調整等の支援を、最大3年間にわたり行う就労定着支援が新たに創設されました。

松風園では、これまでも一般就労した利用者さんに対して、企業や住まいの場であるグループホーム等を訪問してフォローアップを行っていましたが、より細やかに手厚い支援を行うことが可能になることになりました。現在、15名が利用登録されています。

就労定着支援では、利用者本人との面談を月一回以上行うことになっていきます。面談は、ほとんどの方が、職場ではなくグループホームで面談することにしています。グループホームで面談することにより、職場では言いづらい悩みや思いを打ち明けてくれる方もいます。就労定着支援員は、必要に応じて利用者さんへの助言をしたり、職場やグループホーム等との調整を行います。



自分の気持ち(困りごと等)を伝えることが苦手な利用者さんもあります。一人ひとりに応じたコミュニケーションを心掛けています。

就労定着支援の業務は、利用者さんと支援員の1対1で完結できるものではなく、利用者さんを取り巻く関係機関の理解と協力があってこそできるものと思いつながら、日々支援しています。

就労定着支援終了後は、障害者就業・生活支援センターに引き継ぐことになっており、松風園で支援する方のほとんどは、法人内事業所である「しごとネットさくら(北上市)」が継続して支援することになっています。連携・協力により、さらに充実した職場定着支援体制を構築していきたいと考えます。
(障害者支援施設 松風園
生活支援員 佐藤真澄)

相談の一例

- ◇Aさん 定時で帰るように言われるので、仕事を途中でやめて帰ると、翌日他の人から文句を言われる。
◆支援員 職場に本人の困り感を伝え、調整してもらいました。
- ◇Bさん 白衣の脂汚れが落ちなくて困っている。
◆支援員 グループホームの担当者に漂白剤の使用を提案しました。
- ◇Cさん もっと長い時間働きたい。
◆支援員 職場に相談すると、「今の仕事の完成度を上げないと時間延長は難しい」と話されたため、ジョブコーチ支援を依頼。ジョブコーチと一緒に職場を訪問し、情報共有しています。

障がい者文化芸術活動

2020東京パラリンピックまで1年半と迫り、障害者文化芸術活動推進法が昨年6月に施行される中、全国的に障がい者の文化芸術活動が盛り上がりを見せています。当事業団もこの分野で様々な取り組みを進めています。

岩手県障がい者 芸術活動支援センター 「かだあと」

岩手県より委託を受け、障がい者芸術活動支援センターを運営しており、①相談支援、②人材育成、③権利保護、④調査・発掘、⑤展示・発表機会の創出、の5つの事業に取り組んできました。今回は、②人材育成、⑤展示・発表機会の創出についてご紹介します。

人材育成

11月4日にふれあいランド岩手を会場に、るんびにい美術館の板垣崇志さんを講師にお呼びし、「障がい者アート活動支援研修会」を開催しました。福祉の支援からアート支援への意識変革を促すワークショップ、展示に関するワークショップを開催し、知識・技術のみではない創作支援に関わるうでの意識を学ぶ研修となりました。



展示・発表機会の創出 岩手県障がい者文化芸術祭

障がいのある人の日頃の文化芸術活動の展示・発表機会として11月15日から12月2日の期間、ふれあいランド岩手を会場に岩手県障がい者文化芸術祭を開催しました。県内各地から応募のあった326点の魅力ある作品を展示し、多くのお客さまにご覧いただきました。

12月1日に開催したふれあい音楽祭では応募頂いた22団体が出演し、バンド演奏や合唱、ダンス等さまざまなステージを披露しました。最後はゲストの松本哲也さんの呼びかけで観客の皆さんもステージに上がり、一体感に包まれたイベントとなりました。



障がい者芸術普及 プロジェクトチーム

障がい者芸術普及プロジェクトチームは障がい者文化芸術の分野で先駆的活動をしている滋賀県の社会福祉法人グローへの派遣研修修了者5名で構成されています。法人の公益的取り組みとして、障がい者芸術普及と施設と地域の交流につながるイベントを企画し開催しました。

1月20日、宮古市松山荘を会場に「障がい者アートと創作体験ワークショップ」を開催しました。

社会福祉法人グローの研修報告、魅力ある作家の紹介をとおして障がい者芸術の魅力をお伝えしました。後半はワークショッププランナー那須賢輔さんをお呼びし、創作体験ワークショップを開催。創作の楽しさを感じ、互いの作品、表現の魅力を感じることで地域の方々との新たな交流につながりました。



平成30年度 新採用 職員紹介



平成30年12月1日採用(総合職)
 岩手県立療育センター
 診療放射線技師
 おおむら たかひろ
大村 貴弘
 「冷静に優しく検査を行います。」



平成31年2月1日採用(総合職)
 岩手県立療育センター
 看護師
 さいとう ちあき
齋藤 千秋
 「一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。」



平成31年1月1日採用(総合職)
 岩手県立療育センター
 看護師
 すが わら るみこ
菅原 ルミ子
 「子ども達が楽しく過ごせるように看護します。」



平成31年2月1日採用(総合職)
 岩手県立療育センター
 看護師
 たなかだて ひろみ
田中館 宏美
 「笑顔と心配りを大切にしていきたいです。」